

6. 開戦直前のプーチン演説



プーチン大統領は、ウクライナ侵攻直前の演説で、ロシアの過去30年にわたる抗議にも関わらず進められたNATOの東方拡大がロシアの生存を脅かしているとの認識を示し、それが「特別軍事作戦」実行の理由だと述べた。

❖ ロシア連邦大統領による演説(抜粋) ❖

2022年2月24日

(前略)私は今日再び、ドンバスでの悲劇的な出来事およびロシアの安全保障を確証する鍵となるいくつかの側面について語る必要があると考える。

2022年2月21日の演説で私が述べたことから始めよう。我々の最大の関心と懸念について、および無責任な西側の政治家が、毎年毎年、執拗に無礼に臆面もなくロシアに対して作り出している基本的な脅威について私は述べた。私は、NATOの東方拡大のことを言っているのだ。それはその軍事的インフラストラクチャーをかつてなくロシアの国境に近づけつつある。

過去30年にわたり、事実として、我々はNATOの主要な国々と、ヨーロッパにおける平等かつ不可分な安全保障上の諸原則について合意を得るべく辛抱強く試みてきた。我々の提案に対して、我々は常に冷笑的な瞞着や虚言または強圧や

恐喝の企てに直面した。その間も、我々の抗議や懸念にも拘わらず北大西洋同盟は拡大を継続した。繰り返しになるが、その軍事機構はまさにわが国境に迫っているのだ。

何故こんなことが起っているのか。彼らの例外主義、無謬性、完全随意性の高みから見下すこうした無礼なマナーはどこから来ているのか。我々の利害関心および全く正当な要求に対するこうした侮蔑的かつ尊大な態度をどのように説明すればいいのか。

答えは簡単である。すべては明白である。1980年代後期、ソ連邦は弱体化し、完全に崩壊してしまった。あの時に起きた一連の出来事は現在の我々にも良い教訓を与えている。一連の出来事は、権力と意思の麻痺は完全な退廃と忘却の第一歩であると説得力のある説明をしている。(略)

北大西洋同盟のインフラストラクチャーのこれ以上の拡大、あるいはウクライナの土地に軍事的拠点を得ようとする現行の試みは、我々にとっては受け入れられない。もちろん、問題はNATO自身に関するものではない。それは米国の外交政策の道具として機能しているに過ぎない。(略)

米国とその同盟国にとって、それは明白な地政学上の配当をとまなう、ロシアを封じ込めるための政策である。我々にとって、それは生死の問題であり、国民として将来の歴史に関わる問題である。これは誇張ではなく、事実であるのだ。(略)

こうした状況(注:ドネツクおよびルガンスク人民共和国がロシアに助けを求めている状況)において、国連憲章第51条(第7章)に基づき、ロシア連邦院の許可を得て、2月22日に連邦議会により批准されたドネツク人民共和国およびルガンスク人民共和国との友好相互援助条約上の義務を履行するため、私は特別軍事作戦の実施を決定した。(略)

出典:ロシア大統領府HP
<http://en.kremlin.ru/events/president/news/67843>
アクセス日:2023年4月19日